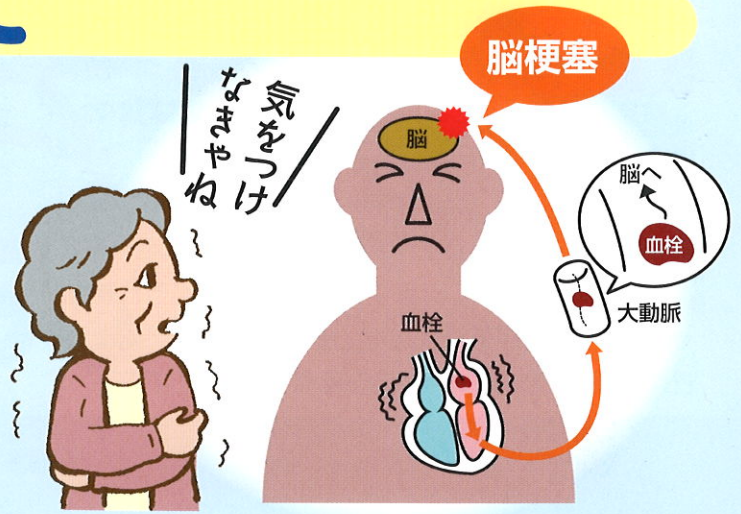


心房細動について

心房細動とは、不整脈の一種で心房といわれる心臓の部屋が小刻みに震え、心臓の脈が乱れる病気です。高齢者に多くみられ、男性の方が女性に比べ発症しやすいと言われています。また高血圧、糖尿病、心臓病などの病気がある方は心房細動を起こす可能性が高まります。誘因としては肥満、大量飲酒、睡眠障害、過度のストレスなどがありますが、原因が特定できない場合もあります。

症状としては、動悸や胸部の違和感、めまいや脱力感、息苦しさなどがみられることがあります。しかし全く症状がなく健診で発見される場合もあります。問題となるのは、心房が規則正しく収縮できなくなることで血液の流れがよどみ、心房の中に血のかたまり(血栓)ができることです。これが頭へ流れてしまうことで脳梗塞を起こす可能性が高くなるため、心房細動を有する人では脳梗塞の発症予



防が大切です。治療は、血栓ができにくくするため、血がかたまりにくくなる薬剤を使用します。生活習慣を見直すとともに、定期的に健診を受診し、心房細動の早期発見に努めましょう。

ヘリコバクター・ピロリ菌の検査方法について

ヘリコバクター・ピロリ菌(以下ピロリ菌)は胃の中にある細菌で、胃潰瘍・十二指腸潰瘍などの病気に関係していますが、最近では、ピロリ菌に感染している人の方が感染していない人より胃癌になるリスクが高いことも分かっています。このようなことから、胃内視鏡検査で胃炎を確認した後、ピロリ菌がいるかどうかの検査をします。そして感染が確定した方は、健康保険を使って除菌治療を受けることができます。ここでは、ピロリ菌感染の確認方法について、簡単にご紹介したいと思います。

ピロリ菌感染があるかどうか確認する方法は、大きく分けて内視鏡検査を使う方法と使わない方法があります。

内視鏡を使う方法 内視鏡の際、胃粘膜組織を採取する必要がある検査	
1 迅速ウレアーゼ法	胃粘膜組織を特殊な液体に浸して感染しているかどうか判定。
2 鏡検法	胃粘膜組織を顕微鏡で見てもピロリ菌がいるかどうか直接確認。
3 培養法	胃粘膜組織にいる菌を増やして感染を確認。
内視鏡検査を使わない方法	
1 抗体測定	血液検査で、ピロリ菌に対する免疫があるかどうかを測定。
2 尿素呼気試験	特殊な液体を服用する前と後に吐いた息を保存し、息の中の炭酸ガスの量の変化を測定してピロリ菌がいるかどうか判断。
3 糞便中抗原測定	糞便中のピロリ菌を直接検出。

それぞれの検査に特徴があり、検査を受ける方の状況などを考慮の上、選択されます。ピロリ菌検査をお考えの際には、主治医の先生とよくご相談いただくのがよいでしょう。